

令和2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771300288		
法人名	社会医療法人慈薫会		
事業所名	グループホームひまわり河崎		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府貝塚市水間183番地		
自己評価作成日	令和2年11月2日	評価結果市町村受理日	令和2年12月16日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiryosyoCd=2771300288-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和2年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いリビングの窓から、四季折々の風景を眺めることができ穏やかに過ごせる。法人の病院と隣接しているので医療連携がとれ、利用者・家族が安心されている。デイケアや小規模多機能型居宅介護がホーム1階にあり、地域の方と顔なじみになり話ができる。認知症対応型通所介護の事業も行い、グループホームの特性を活かしたデイサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会医療法人「慈薫会」河崎病院が母体となり、国が平成9年に全国25カ所を指定したグループホームモデル事業の施設として翌年に開設したホームです。円型構造の2階建ての建物には、デイサービスと小規模多機能型居宅施設が併設され、建物を取り囲むようにめぐらしたベランダや居室の出窓から水間の街がパノラマのように広がります。ホームには専属看護師が常駐、河崎病院とは24時間365日、内線電話でつながり、看取り介護にも対応。充実の医療体制が利用者や家族の安心感につながっています。また、職員間の人間関係のよさも魅力です。職員は利用者担当制のため個々人と深く関わることができ、家族からは「一人ひとりをよく見ている」という声が寄せられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が理念の意義や役割を十分に理解し、毎月具体的に職員の目標を設定している。日頃から職員に助言・指示を行いケアの向上に努めている。	「利用者様に、家庭的な環境で安心と尊厳のある生活を送っていただくため、利用者皆様の残された能力の活用・維持を図り、楽しく・充実した生活が営まれるよう努力いたします」というグループホームの理念を玄関に掲げています。管理者は理念を日々のケアに活かすため、年間目標や月間目標として具体的な文言に置き換え、スタッフルームに掲示しています。	利用者・家族、ホームを訪れる見学者などにもホームの理念を広く周知するため、掲示位置や見せ方に一工夫してはいかかでしょうか。 また、理念について職員間の理解を深めるため、年間目標や月間目標を皆で考えたり公募したりするのも一案です。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	戸外の散歩時に挨拶したり、地域の行事に参加するように努めていたがコロナウイルスの影響で実践が困難となっている。	コロナ禍で中断していますが、地域の各種ボランティアや、近隣にある河崎リハビリテーション大学の学生が定期的に訪れ、交流しています。リハ大との交流では、訪れた学生が利用者と一緒に園芸やクラフト制作などを楽しみ、昨年度は利用者が大学の学園祭に参加して手話を発表しました。この他、ホームでは市からの要請を受け、併設する小規模多機能施設と市内スーパーの2カ所で定期的に認知症カフェを開催しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ(オレンジカフェ)を毎月2回開催し、講演や相談を通じて、地域住民の認知症の理解に努めている。 相談者には様々な情報を提供している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者へのサービス状況などを報告し話し合っている。 市職員・民生委員の方より、意見や助言をいただき、それを参考にケアの向上に活かすようにしている。家族や本人が参加され意見を述べられることもある。	運営推進会議は市の高齢福祉課と地域包括支援センターの職員、民生委員、ホーム職員が参加して2カ月毎に実施しています。会議ではホームの入居状況や行事報告、事故報告等のほか、職員研修で話し合った「不適切介護」について意見を求めるなど、介護の質の向上に向けた積極的な話題にも踏み込んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から高齢介護課の窓口や電話で質問し、相互理解の上サービスに取り組んでいる。	市の高齢福祉課や地域包括支援センターと常に連絡を取り合い、高齢福祉課に事故報告書を提出しています。また、管理者は市の介護保険事業者連絡会やグループホーム部会に参加し、同業者とも情報交換しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律を理解した上で、身体拘束を極力しないケアに取り組んでいる。 2ヶ月ごとに身体的拘束等適正化検討委員会を実施している。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、2カ月毎に開催しています。話し合った内容は職員間で共有し、ケアに活かしています。外出願望のある利用者の行動に対しては見守りと付き添いで対応し、夜間帯以外、グループホームおよび建物の玄関やエレベーターは開錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束の研修を行い、常に管理者、全職員が意識を持って注意・観察を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し、必要に応じて家族や担当者と連絡を取り合うようにしている。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり丁寧に説明している。 疑問があれば納得されるまで説明している。 疑問点等あればいつでも問い合わせしていただくよう説明している。			
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。 問題や相談発生時直ぐに家族へ電話し報告。 コミュニケーションを十分とっている。事業所便りや近況報告している。運営推進会議後、議事録を家族に送付しホームの状況を理解していただくよう努めている。 利用者の気持ちを聴き取り、スタッフ間で話し合っている。	玄関に意見箱を設置しています。家族の訪問時や請求書の送付時に併せて近況を報告するとともに、利用者や家族の意見を聞いています。コロナ禍で面会が難しい状況下では、主に電話で家族と連絡を取り合っています。 聞き取った意見や要望は申し送りノートに記録し、ミーティング等を通じて職員間で共有し、ケアや運営に反映しています。 食事については食べたいメニューを利用者から聞き取り、可能な限り昼食時に取り入れています。 取り組みを始めたばかりの家族会も、感染回避のリスクが下がれば再開する予定です。		
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からショートミーティングを行い、職員間でお互い意見交換している。 職員が自由に意見を言える環境作りに取り組んでいる。 職員の意見を聞き、改善すべきところはすぐに相談・改善し質の向上に努めている。	職場は役職や性別、年齢、経験に関わらず、自由に意見が言える風通しのいい環境です。パート職員の提案で、実施につなげたレクリエーションの事例があります。管理者は職員の表情や言動を観察して必要があれば、1対1で話しあう時間をつくるよう努めています。ホームでは昨年、職場のストレス軽減につなげようとメンタルヘルスに関するアンケートを実施しました。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に対応して、向上心が持てるように努めている。 勤務については可能な限り職員の希望を聞いている。 やりがいについては、職員ごとに担当制とし、利用者と密に関わる体制を作っている。			

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・内部研修に積極的に参加できるよう法人が支援している。 勤務体制も配慮している。 内部研修で伝達研修している。			
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修や相互研修で交流できる機会が増えている。 市のグループホーム部会に参加している。 他施設を参考にして、自施設を見直しサービスの向上につなげている。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の状態観察を行いながら、コミュニケーションを十分にとり、信頼感を持ち安心して過ごせるように努めている。 コミュニケーションがとれない方の場合家族から情報提供してもらい、本人に声かけし、表情などから理解するよう努めている。			
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や問い合わせの時など、インテークを大切に心がけている。 家族の要望を詳しく聴き取り、今後のコミュニケーションが図れるようにしている。			
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から話や現在の状況を十分に聞き取り、必要とされている事を見極めて対応している。			
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているということを念頭におき、出来る事を見守りながら、支えあう関係を築けるように努めている。			
19				○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に情報提供を行い、協力も仰いでいる。 コロナウイルスの影響で面会も制限しているため、家族と本人の関係が薄れない様電話等で密に連絡を取り合うようにしている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の事情を踏まえた上で、訪問を受け入れている。 馴染みの場所へは、家族に協力をお願いして支援している	コロナ禍で面会も難しい中、電話や本人の希望により手紙での支援も行っています。感染が拡大する以前は、家族の協力で馴染みの美容院や飲食店等に出かけたり、お茶の先生の誘いで公民館の文化祭に参加し、馴染みの人と交流したりしていました。また、ホームでは併設の小規模多機能型施設や、系列のグループホームとの交流を通して顔なじみになる利用者も少なくないことから、継続した交流に努めています。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの見守り・援助を通じて、日常生活を互いに協力し支えあえるように支援している。 利用者同士の関係で、席やくつろぎの場所を考慮している。						
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後(隣接の医療機関に入院された方など)も訪問を受け入れている。 家族からの相談も受け入れている。						
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報シートなどを参考にして、本人の気持ち・思いを聞き、意向に添えるよう努力している。 本人からの聞き取りが難しい場合は、家族の協力をお願いしている。	利用者の思いや意向は、入所時に聞き取りフェースシートに記録するほか、入所後も本人や家族から聞き取った情報をその都度、申し送りノートに記入し、職員間で共有しています。 職員は利用者担当制のため、一人ひとりの思いや意向を把握しやすい環境です。	聞き取った利用者の思いや意向は、利用者の人となりを知る重要な手がかりになります。ケアを担う後続者のためにも、フェースシートやアセスメントシート等に基本情報として残し、介護計画やケアに活用することが期待されます。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにしているが、日々の関わりの中で職員が本人・家族からの情報を聴き取り積み重ねている。						
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の援助及び日々の観察とコミュニケーションで把握している。						

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人または家族と話し合い、ケアカンファレンスを行い、職員間で情報交換し、介護計画を作成している。	介護計画書は6カ月毎と状態が変化した時に随時見直し、家族等の同意を得ています。作成に当たっては本人や家族、現場の声を聞く中で、計画書に沿った支援ができていないかを定期的に評価し、カンファレンスを開いています。計画作成担当者は「ご家族や職員の声だけでなく、言葉にならないご本人の思いをくみ取ること」を大切にしています。	現場ではカンファレンス後、見直した計画書と連動して、メインで担当する職員が利用者毎に問題点と解決策を「個別ノート」に記載しています。ノートの冒頭に計画書の介護目標欄を記載してはいませんかでしょうか。計画書に沿った「ぶれないケア」が期待できます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、夜勤者からの情報提供など、気づきは申し送り時に伝えている。 ショートミーティングとカンファレンスで意見交換し随時見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、訪問診療・訪問看護などを利用し必要な支援ができるようにしている。 必要な方には病院への通院リハビリの援助を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響で現在中止にしているが、ボランティアの方々や茶道の先生に来ていただき、生活に変化をつけ楽しみを感じられるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供している。 病院に併設の利点と連携を活かし、初診の場合は家族と共に付き添い、希望を聞いている。利用者の状態に応じて、医療機関を紹介し家族に受診依頼している。	入居時に利用者・家族の意向を確認しています。希望があれば入居前のかかりつけ医に受診可能ですが、利用者は、同敷地内に隣接する母体法人の病院をかかりつけ医として選択しています。夜間、緊急時等は、管理者が家族へ連絡し、スタッフが併設病院へ連れて行きます。病院とは24時間、内線でつながって連絡がとれる体制で、利用者・家族の安心に繋がっています。他の医療機関を受診するときは、家族が同行しています。	

己 自 部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置有り、気づき・異常の早期発見などができている。 介護職からも看護師に報告し相互で情報交換し、適切な判断・指示のもと支援している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当医、病院の看護師、ケースワーカー、栄養科、リハビリテーション科などと日頃より連携をとり、情報交換し早期発見できるように努めている。			
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の面会時に話し合っている。 必要時は医師の診察時に、家族に病状説明を聴いていただき、相談を受けるようにしている。 看取りに関する指針を作成し入所時に家族に説明している。 訪問診療・訪問看護を利用し、ホームの看取りが可能であることを説明している。	看取りに関する指針を作成しており、入所時に利用者・家族へ終末期の支援方針を説明しています。看取りの時期になれば、気持ちも変わることがあるので、サービスの開始時には、利用者や家族の意向を再確認し方針を共査しています。看取りの研修も実施しており、協力医療機関が隣にあるので、支援できる体制が整っています。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルで各自学習する。 不明な点は看護師に確認し、各自対応できるようにしている。 法人の病院内の研修会に参加している。			
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の病院との緊急連絡体制を整備している。 避難訓練を実施している。 非常持ち出し袋を準備している。 法人内施設からの緊急時一時避難を受け入れている。	併設施設と合同で、年に2回の火災時の避難訓練で、避難経路の確認をしています。訓練の様子は写真と共に記録しています。消防署が訪れる隣接施設の避難訓練には職員が参加しています。非常口はいつでも開けられるようになっています。災害に備え、紙おむつやペーパー類、水や缶詰を備蓄し、食品は賞味期限をチェックしています。非常持ち出し袋の用意があり、中身については、これから準備する予定です。		

己	自部外	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より個人情報や人格の尊厳に留意して関わっている。 職員の声のかけ方に注意している。	プライバシー保護について、内部研修をしています。管理者は、職員に日常の中で利用者の尊厳に配慮したケアについて、具体的に伝えていきます。職員は、利用者を人生の先輩として言葉使いにも配慮して接しています。居室ドアのガラス部分に、レース模様のように切った折り紙を貼り、プライバシーが保たれる工夫をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人に合わせて、わかりやすい表現(ことば)で伝える。 個々によく聞こえるよう耳元で説明し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、利用者それぞれの生活リズムで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装を支援している。 足りない衣服等必要に応じて家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者ができることを見つけて手伝っていただき、見守りながら支援している。 昼食作りを毎日実施し、準備や片づけを職員と一緒にしている。	朝食と夕食は隣接する病院から運ばれてきますが、昼食は買い物から調理までホームで行っています。利用者は、玉ねぎの皮むきやサヤエンドウの豆むき、味見、お盆拭きなどできることは手伝っています。職員は、利用者が自分のペースで食べられるように見守り支援しています。七夕や誕生日、正月のおせち料理等イベントの楽しみもあります。ベランダで採れたトマトが食卓に出ることもあります。苦手な食品がある利用者には、別メニューを提供しています。	

己	部	外	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況に応じて支援している。 とろみを使用したり、食事形態を変えている。 食欲がない場合には、好みの物で食欲が向上するように努めている。			
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と寝る前の歯磨きやうがいを、声かけ見守りで実施している。 自分でできない利用者には、口腔ケア介助している。 清潔にして感染予防に努めている。 必要時歯科の往診をうけている。			
43	(16)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけと定時の誘導など、一人一人の排泄パターンを把握して援助している。プライバシーに配慮しながら、トイレで排泄ができるよう習慣づけ支援している。トイレでの排泄を希望される方には、二人介助するなど希望にそえるよう努めている。必要な場合、ポータブルトイレも組み合わせるなど個々に応じた支援をしている。	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、支援しています。大半の利用者はトイレで排泄ができています。夜間等ポータブルトイレを使っている利用者が5人いますが、声掛けして支援しています。重度化に伴い、2人介助で対応する利用者もいます。		
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認とケアチェック表を活用している。 個々の排便習慣に合わせて声かけしている。 水分補給に配慮している。 受診時に医師と相談している。			
45	(17)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調等を確認し、希望に応じて入浴できるようにしている。 機械浴も必要時に利用している。 仲の良い利用者同士の入浴を勧めるなど入浴拒否を減らすように努めている。	利用者は週に2~3回入浴しています。入浴嫌いの利用者には、仲の良い利用者が入るときに一緒にと声掛けしたり、感染症にならないようしましょうなどと優しく声掛けして入浴につなげています。体調やADLに応じてシャワー浴をする利用者や、好みのシャンプーを使い入浴を楽しむ利用者もいます。		
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠できるように、昼夜のメリハリをつけるように過ごしている。 昼食後は自室で休息・仮眠など、自由に過ごし生活に変化をつけている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47				○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で内容を確認している。 個別の服薬確認(ケアチェック表)と援助をしている。 個々の薬の内容をスタッフがすぐに確認できるように、薬ファイルを作成している。		
48				○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が出来ること、したいこと(家事など)と一緒にしていただき、役割での達成感を感じてもらえるように支援している。		
49	(18)			○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で現在は実施が困難となっているが、散歩を兼ねて施設周辺の花を見に出かけている。 家族より外出がどうしても必要な場合、家族の協力を得て外出を行っている。	利用者は近隣の散歩や初詣・花見・公民館祭り・オレンジカフェ・紅葉見物・だんじり祭り見物・買い物・美容院等出かけていましたが、コロナ禍の中では、感染予防のために、訪問美容を利用し、外出支援に替わるものとして、ベランダに出で外気浴したり、ビデオを見ながら歩行したりしています。	
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて、お小遣いを持っていただく。 隣接する病院の売店に、職員と一緒に買い物に行くこともある。		
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。 手紙も出せるように援助している。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		環境整備に心がけている。 季節感、生活感が感じられるように心がけている。 室内の飾り、絵なども利用者と一緒に制作し、季節ごとに変えて楽しんでいる。	広いリビングには大きな窓があり、陽あたりがよく、四季の移り変わりがよく見えます。ペランダには、季節の花々がプランターに植えられています。ソファがいくつも置かれ、利用者は思い思いの場所で寛いでいます。壁面には、利用者と職員が制作した壁飾りを飾っています。リビングのカウンター越しのキッチンからは、食事の準備の音やおいしいそうな匂いが伝わり、家庭的な居心地のいい空間となっています。温度計湿度計が見やすいところに置かれ、室温にも気を付けています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ソファや椅子を状況に応じて配置、思い思いに過ごせるようにしている。 車椅子の方でも、ソファでリラックスできるよう援助している。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		自宅で慣れ親しんだ物を持ち込んで使っている。	居室には洗面台、エアコン、ベッドが備えられています。利用者はテレビ・ラジオ・タンス・椅子・時計・観葉植物・家族の写真やカレンダー・化粧品等を持ち込み、居室の出窓には、花や置物・写真等を飾るなど居心地よく過ごせるように工夫しています。家族の写真に毎朝水を供える利用者もいます。どの部屋も明るく、室内は整えられています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		一人一人の状態に合った役割を声かけ、見守りで支援している。 自分ができ、やりたいと思うことができ、安心・安全に自立した生活ができるようにしている。				